

実況中継「土曜講座」

第3号 2022年5月25日発行

市川学園5月14日の土曜講座 於 國枝ホール

高山 芳樹 先生

通じる英語発音獲得のための処方箋
～「近道のない英語学習」で遠回りをしないために～

東京学芸大学 教育学部 教授



石和田 稔彦 先生のご紹介

1965年 青森県弘前市生まれ
1993年 学習院高等科 専任講師
2006年 東京学芸大学 教育学部 教授 (現職)
【Eテレ・英語番組出演】
エイエイ GO!
おもてなし 即レス英会話 Lesson/Review
もっと伝わる! 即レス英会話 Lesson

主な講義内容の紹介

今年度第2回となる土曜講座では、東京学芸大学教育学部教授の高山 芳樹 (たかやま よしき) 先生より、「通じる英語発音獲得のための処方箋～「近道のない英語学習」で遠回りをしないために～」という題でお話を頂きました。

発音と聞くと、発音記号や英語独特の唇の使い方などの話だと予想をしていますが、高山先生が話されたのは、音節の数やテンポの話で、とても聞きやすい内容でした。まず、高山先生は、日本人の英語が外国の方々に聞き取られにくいことをデータで説明され、その原因が、必要のない母音を加えてしまうことにあることを示されました。母音を加えてしまうことで音節が増えて、その数の違いから、聞き取りにくさが生まれてしまうということは、参加した生徒にとって全く新しい概念でした。発音を特に意識せず、音節を意識して同じ単語を発音すると、伝わりやすさが20～30%上昇するというデータは、まさにそれが証拠であることを示しているものでした。文章では、強調したい単語を意識し、その単語と単語間のテンポを揃えるだけで、伝わりやすい英語になるということを教えていただきました。テンポを意識するだけで、こんなに簡単にネイティブスピーカーに近い英語を手に行うことができると知り、皆驚いていました。非常に新規性に溢れる素晴らしいご講演でした。

受講レポートから

- ・ 発音練習などで、いつもできるだけネイティブの人みたいになれるように発音していたが、この講座で、みんなで発音したときに日本人のような発音をしていました。これから、授業や家などで発音練習をする時には語尾に母音をつけないで練習しようと思いました。(中1女子)
- ・ 英語が苦手を受けてみようと思ったが、とても勉強になったし、自分の発音への疑問が解決した。ネイティブの先生方の英語はなぜスムーズにかっこよく発音できるのかな?とずっと思っていたが、発音するときの強弱、等間隔リズムなどが大事だと分かった。(中2女子)
- ・ 今まで日本語と英語の母音・子音の発音の違いは意識していたが、リズムパターンの存在は知らなかった。日本人の話す英語において、リズムパターンの有無で聞き取りやすさが全く違うことを実感し、今後自分が発音する時は意識したい。ネイティブスピーカーの英語だけでなく、様々なEnglishesを聞き取れるように勉強したいと思った。(中3男子)



- ・ 今回の講座を受講して、自分の発音がうまくいかない理由がよく分かりました。私は通じやすい発音をしようとすると、聞き取りやすいようにはっきり喋ってしまい、不要な母音が入りがちだったことに気づけました。今回やったように、単語の子音を抜いて、いらぬ母音を確認する練習を早速やってみようと思います。私は幼稚園の頃から英語を習っており、小学2・3年生くらいまでは英会話をやっていたのですが、途中から読み方に専念し始めて話すことが減り、英語を話すこと、特に発音に苦手意識を持つようになりました。ですが、今回の講座で、通じる発音のコツ、自分の弱点を知ることができ、とても勉強になったし、トレーニングがどれも面白く、すぐ実践してみようと思いました。(高1女子)
- ・ 日本人は英語が苦手とよく言われるが、それは、日本語は母音を中心とするのに対し、英語は子音を中心としているため、意識しないと真逆の発音になってしまうからだとわかった。外国人が日本語を発音すると、「カマクーラー」などのように、語尾が伸びたり、少し苦手そうに発音したりするのは、外国人が母音に慣れていないからなのだと思う。また、英語のリズムについても今まで意識してこなかったが、オーバーなアクションを付けられるほど思いっきり意識したほうが良いこともわかった。音読でこれらを意識するのは、始めは面倒だと思うけど急がば回れだと思って始めようかなと思う。ラジオなども聞いてみようかなと思った。(高2女子)

- ・ 今後さらにグローバル化が進むことで、私たち日本人のような英語を第二、第三言語として話す人々との交流が盛んになり、コミュニケーションをとる機会が増えると思いました。その際、先生も仰っていましたが、ネイティブスピーカーに伝わるようにする必要はなく、より多くの人に伝わるのが大切だと感じました。そのためにも、細かい部分ではなく、発音における大切なコアの部分大切に、先生の仰っていたことを忘れずに発音出来たらいいなと思いました。(高3男子)



(文責: 田島 明 先生)